

研究授業「保育・教職実践演習」の実施報告
－社会性と対人関係能力－

中村 多見*

Reflections on a Research Class on “Practical Exercises for Early Childhood Care and
Education”
- Sociability and Interpersonal Skills -

NAKAMURA Tami

要約

本稿は、2022 年度後期の研究授業「保育・教職実践演習」の実施報告である。内容は「社会性と対人関係能力」で、職場で必要になる社会人としての基本が身についているかを確認し、卒業・就職までにしておきたいことを明確にした。

キーワード：研究授業，保育・教職実践演習，社会性と対人関係能力

Abstract

This paper is the record of a research class at the Department of Early Childhood Care and Education, Takamatsu Junior College, in 2022. The content of the class was “sociability and interpersonal skills,” confirming that the college students had acquired the basics of being a member of society that they would need in the workplace. What students wanted to do before graduation and employment was also clarified.

key words: research class, practical exercise for Early Childhood Care and Education, sociability and interpersonal skills

1. 研究授業について

- 科 目：保育・教職実践演習（21回目）
- 日 時：2022年12月5日（月）1校時
- 場 所：2105講義室
- 対 象：保育学科2年生56名
- 参 観：保育学科教員7名
- 内 容：社会性と対人関係能力

【文部科学省が指定する社会性と対人関係能力に関する到達目標】

- ・ 教員としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。
 - ・ 組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。
 - ・ 保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる。
- ねらい：職場で必要になる社会人としての基本が身についているかを確認し、卒業・就職までにしておきたいことを明確にする。
- 準備物：座席表，ワークシート，PowerPointのスライド
- 指導案

時間	内容	指導上の留意点
~8:50	・ 座席表の提示，教材準備，その他	・ ワークシートと消毒セットを最前列に準備しておく
9:00	○挨拶 ・ 配布物の確認	・ 最後列までワークシートと消毒セットが配布されたか確認する
9:02	○社会性と対人関係能力 ・ 保育・教職実践演習での学び	・ 改めて，保育・教職実践演習の位置づけや学習内容を確認することで，本授業の必要性を意識できるようにする。
9:05	設問1：あなたの学校生活（学校に来る／みんなに会える日）は残り何日ですか？ 設問2：社会人初日（着任日）を迎えるまでに，あなたがしておきたいこと（＋理由）は何ですか？ 5分間：ワークシート記入 5分間：グループで共有	・ 卒業・就職までの見通しを具体的に持てるようにする。 ・ みんなの考えを知り，より良い見通しを持つようにする。

9:25	設問 3：いよいよ社会人初日（着任日）を迎えます。あなたは社会人としての基本が身についていますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての基本について、保育者になるための基本マナーと社会人基礎力を取り上げて確認する。 ・改めて、見る力や聴く（聞く）力について考える。 ・その際、保育と関連づいていることに気づけるようにする。
9:50	<p>【グループワーク】</p> <p>設問 4：では、実際に社会人としての基本を発揮し、職場でちゃんとやっていけるか試してみましょう。</p> <p>15 分間：話し合い</p> <p>10 分間：ワークシート記入</p> <p>10 分間：発表（一部）</p> <p>※その他のグループ発表は「保育内容－人間関係」の時間で行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・架空事例を使ってグループワーク（ロールプレイ）を行い、実際に社会人としての基本（社会性と対人関係能力）が発揮できるか確認できるようにする。 ・このとき、お互いの気持ちや考えを出し合うことを大切に、比較や評価（正誤や優劣など）は最小限にする。 ・また、感染対策に気をつけて話し合うよう心掛ける。
10:25	○まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業での気づきをまとめる。
	○ワークシートの提出・消毒の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを提出し、出席確認を行う。
10:30	○終了（挨拶）	

本授業科目「保育・教職実践演習」は、2 年生後期に開講され、幼稚園教諭二種免許状および保育士資格を取得するための必修科目である。保育実習ならびに教育実習を終えた学生を対象に、保育者（先生）になるための 2 年間の学びを、これまでの学びの復習を含めて総括するとともに、足りない内容を補完する授業になっている。また、保育者としての最低限の資質能力を有しているかどうかを確認する授業でもある。授業は、保育学科教員が担当し、30 回の授業計画を、それぞれの実務経験や専門性を生かしたオムニバス形式で実施している。

本時は、その 21 回目の授業にあたり、文部科学省が「教職実践演習（仮称）について」[1] で示した「教員として求められる 4 つの事項¹」のうち、「社会性や対人関係能力に関する事項」について、保育学科で大切にしている「保育者になるための基本マナー（笑顔であいさつ、きれいな言葉遣い、信頼を得る身だしなみ、正しい生活技術）」や経済産業省による「人生 100 年時代の社会人基礎力（前に踏み出す力：アクション、考え抜く力：シンキング、チームで働く力：チームワーク）」[2] を取り上げ、保育の土台として社会人基礎力が必要であることをまず確認した。確認にあたり、社会人基礎力の自己分析シート[3]

¹ 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、社会性や対人関係能力に関する事項、幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、教科・保育内容等の指導力に関する事項

を参考資料として提供し、12 の能力要素（主体性、実行力、働きかける力、課題発見力、計画力、創造力、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）を質問項目の内容から具体的な行動レベルで把握できるようにした。次に、実践演習として、架空事例を用いた役割演技（ロールプレイ）に取り組み、実際に社会人としての基本（社会性と対人関係能力）が発揮できるか確認した。確認にあたり、文部科学省が指定する社会性と対人関係能力に関する3つの到達目標（①教員としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる、②組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる、③保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる）[1] について明示すると共に、役割演技（ロールプレイ）においてグループ討論（話し合い）の要素も大いに含むため、保育者としての役割を演じながらもお互いの気持ちや考えを出し合うことを大切に、比較や評価（正誤や優劣など）は最小限に止めるよう注意を呼び掛けて取り組んだ。

2. 検討会について

- 日 時：2022年12月5日（月）2校時
- 場 所：2217 演習室
- 出 席：保育学科教員6名

【参観記録（7名分）の主な内容】

- 授業を積極的に評価できる点
 - 1) 学生のロールプレイが興味深かったです。自分の考えに限らず、様々な立場の人の考えに触れることはとても大切だと思います。90分が短く感じました。文字の構成、配色、デザインがポイントを押しえられていて、パワーポイントが分かりやすい。
 - 2) 保育者として必要となる社会性を意識できるような問いかけが随所に見られ、学生の関心を引き付ける工夫を取り入れながら、ねらいにつなげていたと思います。また、グループワークを取り入れ、自ら考える、意見交換する機会もあり、主体的に取り組めるよう考えられていたと思います。
 - 3) 社会人としての基本についての再確認と、今後の課題を明確にすることをねらいとした授業内容は、社会に出る前の2年生にとってこの時期とても重要であったと思います。主体的・対話的で深い学びとなるようなグループワークを取り入れ、自分の思いや考えを表出する機会が意図的につくられていると思いました。また、クイズやロールプレイなどを楽しみながら「見る力」や「聴く力」を育てるという保育のヒントが沢山盛り込まれていました。
 - 4) 座席指定の配慮があり、普段あまり関わることのなかった学生同士が話し合えたことは、これから様々な人と関わっていかねばならない学生にとって有意義だったと思います。
 - 5) 計画通りの授業で学生の集中力が保たれていた。グループワーク（ロールプレイ）もあ

り、学生は 90 分がとても短く感じていたのではないかと思う。今後の学生生活についても触れられており、今後の学生生活に活かされる内容であった。講義の中で、学生の成長を認める場面があった。学生にとって自分自身の成長とは実感しにくく、目には見えにくいもの。それを言葉で伝えるということが大切で、意識して行っていくことが重要だと感じた。

- 6) 配布資料が、コンパクトに、そして、丁寧にまとまっていると感じた。図やキャラクターの配置など含めて、うまくまとまっているように感じた。資料の構成について、気を付けていること（講義・演習で区別していることがあるか；配布資料が複数になることがあるか；返却、フィードバックなどを行っているかなど）について色々と知りたいと感じた。
- 7) プリントの中にあえて間違いを仕込んでおいて、後で注目させるという仕掛けの工夫もされており、参考にしたい手法でした。学生に提示するパワーポイントやプリントの資料にいつもイラストや図等が入っていて、わかりやすく楽しくなる工夫がされていて良いと思いました。

○授業の改善にかかわる点

- 1) 1 限の授業では収まりきらない内容なので、ここを契機として、様々な授業・研究室活動にもつなげていけるような方策を考えられたらと思いました。
- 2) ロールプレイ（役割を演じること）の経験がないためか、話し合いを進めるのが難しいように感じました。途中再度説明をされていましたが、少し実演を入れると、より分かりやすかったかもしれません。また、話し合うことよりも他の人の意見を記録することに意識が向き、そこからの意見交換に至らない様子が見られたので、まずは話し合う経験を十分にした後、意見をまとめて書く方法も考慮してみるといいのかもしれないと思いました。
- 3) グループワークを取り入れる時のメンバー構成が難しいと感じました。学生の表情や雰囲気から、ロールプレイの意味を理解していないかもしれないと感じました。経験が無いことに加えて、表現の乏しさがあるのかもしれません。学生の姿を見ていると、事前にもう少し具体的に説明することが必要であると思いました。ロールプレイ、グループワークなどについて、他の先生方がどのように取り組まれているのか情報の共有があれば、これからの参考になるのではないのでしょうか。
- 4) 時間がもっとゆっくり取れたらよかったなと感じるぐらい大切な内容でした。後半の社会人基礎力について（アクション・シンキング・チームワーク）の部分、時間があれば、もう少し具体的に考えさせて各自の問題点を意識させた方がよかったのではと思いました。ロールプレイについても、学生が方法を十分に理解していなくて意図するロールプレイになっていないグループが見受けられました。ロールプレイについて見本を見せる（代表者によるロールプレイを前でさせる）などが必要かなと感じました。
- 5) 社会人基礎力やコグトレ [4] について、軽く流していたように感じた（あまり時間を

かけていなかったと思われる)。だが、社会人基礎力の方は、授業内で取り組んでも良かったのではないかと振り返る。もちろん、他にメインで扱いたいものがあったから、時間を削ったのだとは思いますが、そう考えると、授業者的には、学生にこれらの資料をどう読んで欲しかったのか（理解して欲しかったのか）という疑問が出てくる。また、架空事例のポテンシャルという点が気になった。それこそ、話し合いがどのように進むか（教師の期待以下になるか、教師の予想を超えた拡がりを持つか）は、ある程度、事例の力に依存するだろう。「答えがないように見えて、実は答えがある事例」（ある先生の発言）という指摘は、的を射ているように感じる。強度のある事例が必要である。学科全体で、あるいは、たとえば子ども研究所などで、そういった事例の収集・作成などを行えると良いかもしれない。

- 6) 2年生にもなると、上手に話し合いを行い、発言してくれるものだと感じた。ただ、その話し合いの仕方が、保育者になる者（これから社会人になる者）として相応しいものなのか、という疑問も感じた。彼女たちは、教師が求める答えを探して、それを効率よく答えることが上手になったのかもしれない。話し合いの際にも、そのような答え（発表し、正解と言われることを前提とした答え）を、上手に時間を使って考えるようになる。ただ、こういった話し合い力（協同性）は、社会に出た時にあまり役に立つものではない。彼女たちに欠けている経験は何かと考えると、その一つに、自分とは性質が異なる人と話す機会があるかもしれない。たとえば、他の学部・学科の学生、学年の離れた学生と話す機会は、ほとんどないのではないか。ロールプレイの箇所は、授業者の意図通りには進まなかったところであったかもしれないが、これは、この授業単独の問題ではなく、学科全体で考えていかなければならないものであろう。
- 7) 後半の架空事例を使ったグループワーク（3～4人）でロールプレイをするところで、ルール説明が少なかったために、やり方が分からない学生が多かったように思います。会話のキャッチボールがなかなかできていなかったです。そもそもロールプレイ自体をやった経験がそんなになかったのか、やり方が分かっているのでしょうか？どのような話になったかの発表では、話し合いによって導き出された結論というより、最終的にワークシートに書いてまとめるためのよう、模範的な答えが導き出されていたように思います。もう少し議論を楽しむ時間を多く取った方が良かったのではないのでしょうか。

○その他

- 1) 自分の意見を言って良いとする学校文化が欠けているのかもしれない。これは、保育学科に限らず、日本の多くの学校に共通することだと思う。学習者は、教師が期待する答えを求める態度に染まってしまっているところがあるように思われる。そして、その態度は、自分の意見なんてどうせ聴いてもらえない（聴かれる価値がない）という彼女たちの諦めの気持ちを表してもいる。今回の授業の中で、そのような学生の姿が強く見られた、というわけではない。ただ、アクティブ・ラーニング型の授業が行われ、そこで話し合い活動（正確にはロールプレイ）に取り組む学生の姿を見る中で、アクティブ・

ラーニングがうまくいくためには、そのような態度を崩すことが必要になると思われた。そして、今回の授業とは別のところで学生と雑談をしている時に、彼女たちが自分の意見を発する場を得られていないのではないかと感じたことを思い出した。たとえば、学生掲示板とか、誰もが自由に使える壁面とか、そういうものがあると、少し雰囲気が変わるかもしれない。

- 2) それぞれの学生が、議論をして（けんか腰になるのではなく）ある方向を導き出すことに慣れていない（そのような経験がない）様子でした。その訓練が必要なのでしょう。私の授業で、全体に対して説明後に「質問はないですか？」の問いに、手を挙げて質問する人はなかなかいません。そして作業を進めさせて、巡回していると、それぞれの学生から、さっき説明したでしょうという内容の質問が次々に来ます。昔だったら隣にいる友達にこれどうやるのだったっけ？と相談していましたが、今は、友達同士の横の会話が少なくなっているように思います。先生と学生の1対1の対応でない前に進まないことが非常に多くなりました。
- 3) ワークシートを書かせて理解をさせることは大切だと思いますが、その書いてまとめることが主になって、今回のようなコミュニケーションを主に行う授業ではマイナスになることもあるのだと分かりました。研究授業後の話し合いの中で出てきましたが、欧米でよく行われているような答えのない問題を提示して、議論をさせるという経験を増やしていくべきなのでしょう。話し合いの中でもマナーがあることを経験によって覚えさせるべきなのでしょう。

3. 研究授業の振り返り

今回、授業者にとっては3回目、10年ぶりの研究授業であった。前回に比べると、授業内容や進め方、教材について、“分かりやすいワークシートやスライド”“いろんな仕掛けや工夫があって面白い”“テンポのいい話し方”“集中して90分が短く感じられる授業”であると評価され、授業者としては自身の成長を実感できるものであった。

一方で、本時は2022年度から初めて担当する授業内容であったため、どのような内容を取り上げながら進めていけばよいか、授業者にとってかなりの迷いがあったことは否めない。あれもこれもと欲張りすぎて、1限の授業（90分間）では難しいものになってしまったと反省する。この点については、次年度以降の授業計画では2限分（180分間）に拡充されることが決まったので、社会人基礎力やコグトレについての丁寧な説明を加えて、適切に理解できるよう改善したいと思う。

次に、役割演技（ロールプレイ）については、事前に確認しておく必要があった。学生や先生方にこれまで役割演技（ロールプレイ）に取り組んだことがあるかの聞き取りをしておけば、本時に初めて役割演技（ロールプレイ）に取り組むことを踏まえた説明ができ、もっと分かりやすく／理解してしっかりと取り組めたと思われる。「やって初めて分かること」の大切さについては、いつも学生に指導しているものの、本時で見られた説明不足による学生の「戸惑い」「混乱」「停滞」に加え、役割演技（ロールプレイ）の最中に何度

も「追加説明」するといった状況は明らかに授業者の準備・確認不足による失敗であったと悔やんでいる。かつ、役割演技（ロールプレイ）を通じて、お互いの気持ちや考えを出し合うことを大切にしていたにもかかわらず、架空事例のポテンシャルが十分でなかったために、話し合いが深まらず、無難な結論に早々に至るような結果になってしまった。今後は、検討会で指摘されたような「答えのないような事例」についても収集し、活用できるようにしたい。この点は、特に検討会で話題になった「学生の話し合う力」をトレーニングすることにもつながると思われ、授業者自身はもちろんのこと、学科全体で連携しながら取り組みたい課題である。

4. その後の取組として－「保育内容－人間関係」での役割演技（ロールプレイ）

今回の研究授業（12/5）で課題になった「役割演技（ロールプレイ）を通じて、お互いの気持ちや考えを出し合うこと」について、その後、授業者が担当する別科目「保育内容－人間関係」の演習内で継続して取り組むことにした。目的は、役割演技（ロールプレイ）について正しく理解することと、実践しながら多様な視点を持てるようになること、そして、多様な視点の中で自己理解や他者理解を深め、最善を尽くすための話し合う力を培うきっかけづくりをすることである。

まず、第12回授業「育ちを支える保育者同士の人間関係」（12/15）の中で、役割演技（ロールプレイ）について丁寧に説明し、そのねらいを確認した上で、別の架空事例を活用して、2度目の役割演技（ロールプレイ）をやってみた。

ロールプレイとは、現実にかかる場面を想定して、複数の人がそれぞれの役割を演じ、疑似体験しながら、実際の社会生活の中で起こりうる問題解決や意思決定、人間関係づくり等のプロセスと適切な対応法について学ぶものである。

【ねらい】

- ① 架空事例に登場する人物の役割を演じることで、自分以外の他者に対する想像力を持つことができるようになる。
- ② 他者に対する想像力を使って、他者の立場になって考え行動することで、深い他者理解に繋げることができる。
- ③ 深い他者理解は、自己との違いを認識するだけでなく、多様な視点をもって最善を尽くすための人間力を得ることにもつながる。

次に、第13回授業「子どもたちの人間関係を育む学級経営」（12/22）の中で、話し合いで大切なことを追加説明し、別の架空事例を活用して、3度目の役割演技（ロールプレイ）をやってみた。

- みんなが話すこと
- 自分の気持ちや意見、相手の思いや事情、疑問に思ったことや提案したいことを出し切ること
- ここまでは、できるだけ肯定も否定もせず、ただ徹底して聴くこと
- すべての話が出切ったら、整理しながら考え合うこと
- 最終的な結論に至らなくても構わない／中途半端に終わってもよい

そして、第 14 回授業「指導案作成から保育へ：人間関係力を育てる」(1/19)の中で、初回の研究授業時に活用した架空事例を再度取り上げて、4 度目の役割演技（ロールプレイ）をやってみた。その結果として、学生が実感した自分なりの変化が次のとおりである。

- 最終的な結論には至らなかったが、全員が話す(意見を出し切る)ことができた
- 以前よりも長く深く話し合うことができた／お互いに質問することが多くなった
- 出た意見をまとめることが大変なほど、いろいろな意見が出てくるようになった
- 意見がぶつかり合うようになった／お互いに質問を繰り返して、納得するまで話し合おうとした
- 話すとき、聞くときに、気持ちや思いなど、いろいろな視点で柔軟に考えようと努めた
- 話すとき、答えるときに、言葉を慎重に選ぶようになった／相手の心情や立場を考えて伝えようとした
- みんなの意見を尊重しようとするとうまくいかず困った／何(誰)を大切に話し合えばいいかわからなくなった等

少なからずかもしれないが、授業者が研究授業の中で明示した文部科学省が指定する社会性と対人関係能力に関する 3 つの到達目標(①教員としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる、②組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる、③保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる) [1] に近づくことができたように思われる。実際の職場では架空事例よりもずっと複雑で困難な事態に対応しなければならないはずで、授業どおりの話し合いでは済まないかもしれない。しかし、今回の取組が少しでも学生の「社会性や対人関係能力」を高めるきっかけとして有効であるならば、次年度以降もさまざまな授業の中で役割演技(ロールプレイ)を取り入れて、学生の話し合う力を育てていきたいと思う。

謝辞

本研究授業に対する先生方のご指導と、意欲的に受講してくれた学生に心より感謝いたします。

引用文献

- [1] 文部科学省 2006 「教職実践演習(仮称)」について
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337016.htm
- [2] 経済産業省 2018 「人生 100 年時代の社会人基礎力」
<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>
- [3] 社会人基礎力 自己分析シート
<http://graceful.blush.jp/pdf/社会人基礎力自己診断シート.pdf>
- [4] 宮口幸治 2015 「コグトレ みる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング」 三輪書店

*次項以降は、本時で配布したワークシートである。

保育・教職実践演習②1 ワークシート

学籍番号：_____ 氏名：_____ 研究室：_____

社会性と対人関係能力

－職場での人間関係、ちゃんとやっていける？－

【参考：文部科学省が指定する社会性と対人関係能力に関する到達目標】

- 教員としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。
- 組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。
- 保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる。

設問1 あなたの学校生活(学校に来る/みんなに会える日)は残り何日ですか?…()日

今日は2022年12月5日(月)です。

実地調査の日は? _____

今年最後の授業日は? _____

(冬休み・)

来年最初の授業日は? _____

短大最後の試験期間は? _____

短大最後の成績通知日は? _____

(春休み)

卒業式(学位記授与式)は2023年 月 日(木)です。

新任研修の予定は? _____

社会人初日(着任日)は2023年 月 日()です。

人生の節目が
盛りだくさん!
一日一日が
かけがえのない毎日
になりますように。

設問2 社会人初日(着任日)を迎えるまでに、あなたがしておきたいこと(+理由)は何ですか?

自分の考え+理由

みんなの考え+理由

※グループで共有しましょう!

公私(人生)の
バランスとつながり
をよく考えて。



問3 いよいよ社会人初日(着任日)を迎えます。あなたは社会人としての基本が身についていますか？

【保育者になるための基本マナー】 ※2号館2階中央にある保育学科の掲示板を思い出して！

() _____
() _____
() _____
() _____

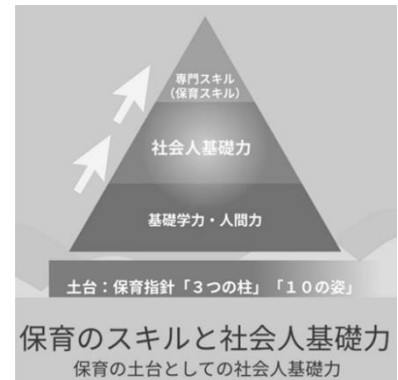
何気ない日常の中にある
とても大切なこと。。
ちゃんと見てる？聴いてる？
表面に間違いが2カ所あるよ。



一般社団法人
日本 COG-TR 学会

【社会人基礎力について:職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力のこと】

主体性	実行力	働きかけ力
課題発見力	計画力	創造力
発信力	傾聴力	柔軟性
状況把握力	規律性	ストレスコントロール力



社会人基礎力と保育スキルの関係

設問4 では、実際に社会人としての基本を発揮し、職場でちゃんとやっていけるか試してみましょう。

○ 架空事例： _____ ○ 保育者： _____

○ どんな話し合いになりましたか？

(それぞれの気持ちや考え、その変化、話し合いの流れや方向性、これからの見通しや結論など)

○ 話し合いの中で「あなたが難しい／大変／苦手と感じたこと」は何ですか？

○ 話し合いの中で「あなたが大切／素敵／見習いたいと感じたこと」は何ですか？

まとめ:この授業を受けて感じたことや思ったことを書きましょう。